

平成24年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

教員免許状更新講習「授業づくりに活かせる体験活動」 ～海が学校！海が先生！～ 実施報告書

【趣 旨】 小学校教員等が体験活動の意義について理解するとともに、「海」を中心とした基本的な体験活動指導技術を実習を通して身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【期 日】 平成24年12月25日（火）～12月27日（木） 2泊3日

【会 場】 国立江田島青少年交流の家

【対 象】 平成25年3月31日及び平成26年3月31日が最初の修了確認期限の方で以下に該当する方。

小学校・特別支援学校（小学部）に教員として勤務している者

小学校・特別支援学校（小学部）教員として任命・雇用される見込みのある者
（非常勤リストに登録していること・採用内定がされていること等）

小学校・特別支援学校（小学部）教員勤務経験者

＜本講習の受講対象者の生年月日＞

・昭和32年4月2日～昭和33年4月1日 ・昭和33年4月2日～昭和34年4月1日

・昭和42年4月2日～昭和43年4月1日 ・昭和43年4月2日～昭和44年4月1日

・昭和52年4月2日～昭和53年4月1日 ・昭和53年4月2日～昭和54年4月1日

その他の校種の方（養護教諭・栄養教諭は除く）も、本講習に興味がある場合は受講できる。

【参加者数】 24人（小学校教諭18人，中学校教諭3人，特別支援学校教諭1人，その他2人）

【企画・運営のポイント】

（1）教員の体験を豊かにする

教員自らが自然体験活動等を行うことにより、体験活動の意義や教育的効果を体感できるようにする。そのために、江田島の「海」を活用した「海辺の生き物観察と指導法」や「カッター研修」を行う。

（2）「参加型研修」で研修効果を高める

研修プログラムを実習と講義を組み合わせたものにし、体験と知識を結びつけることで理解を深め、実践に活用できる力を身に付けられるようにする。「海辺の生き物観察と指導法」では、江田島の「海」に生息する生き物たちに直接触れながら、指導法について学べるようにする。

（3）宿泊研修で受講者（教員）間のネットワークを築く

受講者（教員）が児童・生徒の宿泊合宿と同じように寝食を共にし、学び合い・語り合うことで、教員間のネットワークを築くことができるようにする。講義や実習、生活の中で、できるだけ小グループでの活動を多く取り入れ、その都度編成も変更し交流を図れるようにする。

【活動の実際】

(1) 内容 「教科指導、生徒指導その他の教育の充実に関する事項」(選択18時間分)

- ①〔講義〕教育の課題に関する理解 (1.5h) 広島大学大学院教育学研究科准教授 曾余田 浩史
(内容) 教育の現状と今日的な課題に関する講義
- ②〔講義〕体験活動に関する理解 (2.0h) 広島大学大学院教育学研究科教授 林 孝
(内容) 体験活動の意義や学習指導要領における「体験活動」の位置づけに関する講義
- ③〔実習・講義〕体験活動に関する技能の習得
 - ア〔実習・講義〕カッター研修 (2.0h) 国立江田島青少年交流の家企画指導専門職 阿部 貴志
(内容) カッター研修の教育的効果に関する実習・講義
 - イ〔実習〕野外炊事 (2.0h) 国立江田島青少年交流の家企画指導専門職 阿部 貴志
(内容) 宿泊活動でよく行われる「野外炊事」の基礎的な技術を習得する実習
(かまどづくり・炊事・安全指導など)
 - ウ〔実習・講義〕海辺の生き物観察と指導法①～③ (7.0h) 大柿自然環境体験学習交流館館長 西原 直久
(内容) 海辺の生き物の観察及び採集を行い、実物体験の意味と指導法を理解する実習・講義
 - エ〔実習〕レクリエーションの意義と指導方法(2.0h) 国立江田島青少年交流の家主任企画指導専門職 森 直樹
(内容) 子ども同士の関係を円滑にするためのレクリエーションの意義と指導法を学ぶ。
- ④ 履修認定試験 (1.5h)

(2) 日程

【第1日目】 12月25日(火)

	12:00	12:30	13:00	15:00	15:20	17:20	18:30	20:30
	受付	開講式・ガイダンス	実習 レクリエーションの意義と指導方法(2.0h)	休憩	実習・講義 海辺の生き物観察と指導法① (2.0h)	休憩	夕食 (情報交換会)	入浴

【第2日目】 12月26日(水)

	7:20	8:40	10:40	11:00	12:30	13:30	17:00	17:30	20:30
	朝食	実習・講義 カッター研修(2.0h)	休憩	実習・講義 海辺の生き物観察と指導法② (1.5h)	昼食	実習・講義 海辺の生き物観察と指導法③ (3.5h)	休憩	実習 野外炊事(3.0h) *食事・休憩(1.0h)を含む	入浴

【第3日目】 12月27日(木)

	7:20	8:40	10:40	11:00	12:30	13:30	15:00	16:00
	朝食	講義 体験活動に関する理解(2.0h)	休憩	講義 教育の課題に関する理解(1.5h)	昼食	履修認定試験(1.5h)	閉講式	解散

(3) 費用 23,500円(受講料18,000円,食事代等5,500円)



【成果】

- (1) 「海辺の生き物観察と指導法」では、潮位の関係上海岸での活動ができなかったが、大柿自然環境体験学習交流館で飼育しているカブトガニやヤドカリ、ウミホタルなどを教材として、受講者が直接触れながらその生態や特徴、教材としての活用方法など、知識と体験を結びつけながら指導法について学ぶことができた。受講者からは、「野外の活動、体験を通した活動は、机上で勉強するよりも学ぶことが多く勉強になった。」などの感想があった。
- (2) 「海辺の生き物観察と指導法」をはじめとして、講義と実習を組み合わせたことにより、体験と知識を結びつけることで理解を深め、実践に活用できる力を身に付けることができた。また、レクリエーションの意義と指導方法では、子ども同士の関係を円滑にするためのレクリエーションの意義と指導法を学び、受講者からは、「すぐに学級に戻って使える内容でよかった。」という感想が出された。
- (3) 普段は交流する機会が少ない先生方（別の地域に勤務、別の校種（小・中学校）、別の職種）が3日間共に過ごし、情報交換をすることができた。「個人の免許状更新講習とはいえ、仲間とのつながりを意識した実習等ができ充実感があった。」との感想もあり、講習全般を通して交流を深めることができた。

【今後の課題】

- 冬のこの時期は干潮時に潮位があまり下がらず、海岸での活動ができなかった。学校での指導に活かすためには、できるだけ実際の環境下で本物に触れながら体験できるよう、海に出て活動ができる研修プログラムを編成する。
- 18時間の講習を開設するために2泊3日の日程で行ったが、プログラムに時間的なゆとりがもてなかった。初日の開始時刻を早めに設定するなどゆとりのある研修プログラムを編成する。